

2019年3月期第2四半期 決算説明会の概要

1. 実施概要

- (1) 日 時 2018年10月26日(金) 16:30~17:30
- (2) 場 所 株式会社日立物流 本社2F 大会議室 (東京都中央区京橋二丁目9番2号)
- (3) 出席者 <当社>
執行役社長 中谷 康夫
執行役専務 神宮司 孝、執行役常務 佐藤 清輝、執行役常務 林 伸和、執行役常務 藤谷 寛幹
<報道関係者・機関投資家・アナリスト他> 103名
- (4) 内 容 ①決算概要説明、補足資料説明
②質疑応答

2. 主な質疑応答(要旨)

Q1. 西日本豪雨以降、備車費が値上がりしていますが、その影響額は災害影響に含まれていますか。

A1. 災害影響には、西日本豪雨以降の主な自然災害に起因する備車費(トラック輸送費)の増加分も含めています。また、直接的な影響額だけではなく、顧客出荷物量の減少など機会損失による影響額なども含めています。

Q2. 戦略投資は通期計画21億円のなか上期6.6億円実施されましたが、下期に差額(14.4億円)を実施するのでしょうか。また、来期戦略投資の見通しは。

A2. 21億円は今年度に全て実施する計画でいます。新技術に関する戦略投資は早く通常の設備投資にしたいという思いもありますが、来年度以降も一定の枠として同程度の戦略投資は止めることができないと思います。

Q3. 関西国際空港(以下、関空)における災害影響は、下期に落ち着いてくるのでしょうか。

A3. 関空への輸入貨物は成田空港に移すなどしていましたが、現在はほぼ落ち着いてきています。但し、年内はまだある程度滞留することが予想されますので、正常化するのには1月以降になると見込んでいます。

Q4. SGホールディングス(以下、SGH)との協創PJの進捗はどうか。経営統合に向けてどうしてお考えですか。

A4. 経営統合については、今期掲げた目標値を達成した後の話になると思いますが、お互いの方向性の確認や数値的な裏付けも含めた今後のシナジー効果の規模についての検証が必要となります。

Q5. 次期中計の方向性を教えてください。

A5. LOGISTEED のビジネスコンセプトのもと、次期中計では足りない機能・リソースを補うとともに、弱いところをどう強化するかも論点になります。新技術の開発・運営もありますが、海外事業をダイナミックに伸ばしていくというのが、次期中計の一つの骨子になると思います。

Q6. 日立キャピタルとの協業はどのような状況でしょうか。

A6. スマート安全運行管理システム(以下、SSCV)を中心に実務ベースでの協業は順調に進捗しています。業務提携の締結については、事務的な手続きを進めている状況で心配はしていません。

Q7. フォワーディング事業において、現中計で掲げている施策の中で、達成した部分とそうでない部分を教えてください。また、新領域への拡大も掲げていたと思いますので、その進捗も教えてください。

A7. M&A によって当社に加わった会社を中心に海外ネットワークの強化は図れています。課題は日本発着フォワーディング事業ですが、AIT との資本業務提携等により強化を図ります。なお、新領域への拡大としては、ウフルや日立キャピタルとの提携、EC プラットフォームなどの取り組みもごさいますが、詳細は進捗を踏まえ、今後説明させていただきます。

Q8. 営業利益が計画を上振れたと説明がありましたが、こういった要素か教えてください。

A8. 災害影響等もありましたが、協創効果も含め、国内事業が堅調であったことが要因の一つです。

Q9. 料金改定の進捗はどうですか。また、下期の見通しは。

A9. 料金改定は1Qと同様に順調に進んでいます。下期も上期と同程度の寄与を見込んでいます。

Q10. EC プラットフォームセンターについて具体的に教えてください。

A10. EC プラットフォームセンターは、複数のお客様で同一のオペレーションを行い、省人化技術を導入することで従来作業と比較して50%以上の省人化を見込んでおります。料金体系は、タリフのような料金体系にしていこうと考えております。

Q11. 海外での事業展開についてお伺いしたい。

A11. 当社の海外事業は、地域の事業基盤の強化としてアセットを所有している米国の JPH 社やトルコの MARS 社を M&A してきましたが、さらなるトラック事業の補強を北米、欧州で検討しています。フォワーディング事業は、AIT との協業を中心に考えており、VHF との協業にも期待しています。

3. 会場風景



以上